



翔

2014
December
No.231
百万石蝶談会

医王山でエルタテハを採集

高 野 敏 明

湯浅純孝氏(富山市)が、今夏の生物調査中に、医王山でエルタテハを採集された。医王山富山県側では初記録と、湯浅氏は認識されており、では-と石川県筋に医王山における過去の記録を尋ねられたが、明確な回答は得られず、結果、高野に記録報告を預けられた、という経緯である。

本報告は、湯浅氏に替わって高野が、医王山の昆虫相について誰よりも情報を集積し発表してきた百万石蝶談会に敬意を表し、寄稿するところである。貴重な記録の報告を筆者に委ねられた湯浅純孝氏にお礼申し上げる。

13時ごろ、晴天。氏は、国見キャンプ場の標高655mにある資材小屋の壁面に止まっていた、新鮮なエルタテハ1♂を採集。同行者1名。氏は付近で、これ以外に本種を見ていない。

2014年7月26日 富山県南砺市医王山国見平国見キャンプ場 エルタテハ 1♂ 湯浅純孝



《 たかの としあき 〒930-0103 富山市北代 1-660 》

石川県白山市中宮でエルタテハを観察

平松 新一・南出 洋・安田 雅 美

白山市中宮展示館周辺でエルタテハを観察したので報告する。

中宮展示館は、白山市中宮の中宮温泉手前、蛇谷川沿いにある石川県白山自然保護センターが管理する施設で、海拔600mの位置にある。その裏には、蛇谷自然観察路があり、谷側にはオニグルミ、山側にはミズナラを主体とする落葉広葉樹林が分布している。ここに生育しているミズナラのうち数本から樹液が出ており、そこにはコウチュウ目ではミヤマクワガタ、アカアシクワガタ、コクワガタ、カナブン、アオカナブン、シロテンハナムグリなど、チョウ目ではクロヒカゲ、ヤマキマダラヒカゲ、ヒオドシチョウ、ルリタテハ、アカタテハなどそのほかにはキイロスズメバチ、トゲアリ、ハエ類など様々な昆虫が集まっている。

その中で、石川県では比較的観察例の少ないエルタテハを目撃した。この日はアカタテハ、ルリタテハ、ヒオドシチョウなどとともに、ミズナラの樹液に訪れていた。



図1 ミズナラの樹液に集まるルリタテハとアカアシクワガタ
(2014年8月21日撮影)



図2 ミズナラの樹液を訪れるエルタテハ
(2014年7月26日撮影)

2014年 7 月 26 日 石川県白山市中宮展示館周辺 1頭目撃 平松新一

《ひらまつ しんいち 〒920-2132 白山市明島町春99-28》
《みなみで ひろし 〒922-0274 加賀市別所町漆器団地30-5》
《あんだ まさみ 〒923-1224 能美市和気町リ190-1》

白山市一里野スキー場上部でエルタテハが樹液に飛来

松 井 正 人

石川県のエルタテハは、いつ頃どこへ行けば確実に観察できるのか分からない稀少な種で有ったが、2014年は、白山市一里野スキー場周辺で複数のエルタテハが観察され（吉村、2014）（松井、2014）、白山自然保護センター中宮展示館周辺では、樹液に飛来したエルタテハが観察されている（平松新一、2014）。

一里野スキー場には、ゴンドラリフト山麓駅から標高1150m付近まで車道が整備されており、標高800m付近からウダイカンバが目につくようになる。標高1000m付近には、ゴンドラリフト山頂駅への分かれ道があり、この辺りから標高1100m付近にかけて、車道脇に樹液の出ているウダイカンバが有り、そのうちの何本かでエルタテハを観察した。樹液には、コムラサキやルリタテハ、ヒオドシチョウ、スミナガシのほか、クワガタやカナブンなども訪れていた。

2014年8月 2日 石川県白山市一里野スキー場上部 エルタテハ 4頭目撃 松井正人

2014年8月23日 石川県白山市一里野スキー場上部 エルタテハ 4頭目撃 松井正人

ウダイカンバは、エルタテハの食樹になっている可能性もあり、一里野スキー場上部はエルタテハの確実な観察地のように思われる。

《 参考文献 》

平松新一（2014）石川県白山市中宮でエルタテハを観察．翔(231):2.

松井正人（2014）白山市一里野スキー場上部でエルタテハ発生の可能性．翔(229):4.

吉村匡平（2014）白山市一里野スキー場でエルタテハを採集．翔(229):3.





樹液に訪れたエルタテハとコムラサキ (2014年8月2日撮影)



樹液に訪れたエルタテハとミヤマクワガタ(2014年8月23日撮影)

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

白山市山間部の2ヶ所でエルタテハを確認

三 上 秀 彦

2014年は白山麓を中心に多数のエルタテハ *Nymphalis vaualbum* が観察されたようであるが、筆者も、旧尾口村(現白山市)の2ヶ所における本種の確認情報を受けているので、記録にとどめておく。

報告に先立ち、確認情報および写真を提供いただいた金沢市在住の高畠金子氏にお礼申し上げます。

■一里野スキー場

標高670m付近において、ヤマブキショウマで吸蜜している個体を確認された(写真1)。

2014年7月25日 石川県白山市尾添(一里野スキー場) 1頭目撃 高畠金子

■瀬戸丸山公園

標高300m付近において、8月3日に翅だけが確認され、9月10日にはコナラで吸汁する1個体を確認された。9月16日には、コナラで吸汁する3個体を確認された(写真2、3)。この3頭は、それぞれ別個体である。

2014年8月3日 石川県白山市瀬戸(丸山公園) 1死骸目撃 高畠金子

2014年9月10日 石川県白山市瀬戸(丸山公園) 1頭目撃 高畠金子

2014年9月16日 石川県白山市瀬戸(丸山公園) 3頭目撃 高畠金子



写真1 ヤマブキショウマで吸蜜するエルタテハ(2014年7月25日 一里野スキー場にて高畠金子撮影)

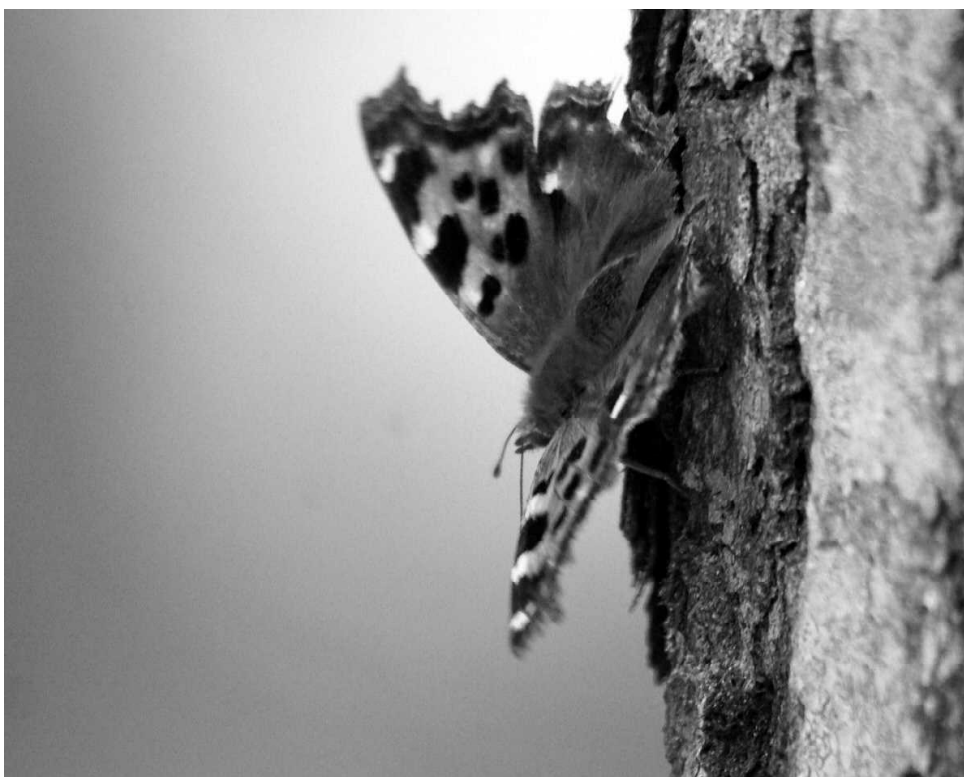


写真2 コナラで吸汁中のエルタテハ(2014年9月16日 瀬戸丸山公園にて高島金子撮影)



写真3 コナラで吸汁中のエルタテハ(2014年9月16日 瀬戸丸山公園にて高島金子撮影)

《みかみ ひでひこ 〒920-0272 内灘町向陽台1-331》

富山県南砺市袴腰山で観察した蝶

松 井 正 人

富山県南砺市の袴腰山は標高1159mで、ブナオ峠から高清水山に連なる尾根上にある。国道304号線五箇山トンネルの城端側と五箇山側のどちら側からも車道があり、袴腰山の標高900m付近を通して、小瀬集落につながっている。五箇山トンネルができる前の国道は細尾トンネル経由だったため、その部分は舗装されているが、細尾トンネルから袴腰山登山口にかけては砂利道で、登山口から小瀬集落までは舗装されている。

かつて城端から五箇山へ抜ける細尾トンネル経由の国道は、人喰谷を縫うように走る難所中の難所で、名古屋と金沢を結んだ大型バスも走っていたが、交差はままならず10トンダンプが人喰谷に転がるのを見た事がある。このときは途中で止まって谷に喰われることはなく、窓から人が無事に出てきたのを覚えている。今は、五箇山トンネルとそれにつながる梨谷大橋のおかげで城端と五箇山は楽々と往来できるようになった。

細尾トンネルから袴腰山に向かうと、木の生えていない露岩地が所々に見え、ゴマシジミの発生地があることを予想させる。車道より少し標高を上げることで、ゴマシジミの発生地にたどり着くことができるが（松井、1989）、今回は、標高800～900m付近の車道を歩いて観察した蝶を紹介する。

観察した中には、「レッドデータブックとやま2012」に掲載されている以下の種が含まれている。

1. ヘリグロチャバネセセリ

露岩地の草付きで観察したので、露岩地のカリヤス類で発生していると思われる。

2. ミヤマカラスシジミ

サカハチチョウに交じり、ヨツバヒヨドリで吸蜜する多数の個体を観察した。吸蜜に夢中で、カメラを近づけても逃げることは無く、触れるとちょっと飛んで近くのヨツバヒヨドリで再び吸蜜を始めた。

3. カラスシジミ

ヨツバヒヨドリで吸蜜する1頭を観察した。ミヤマカラスシジミと思って近づくと後翅裏面の白帯から本種と分かったが、直ぐに飛び立ち再び観察する事は無かった。

4. エルタテハ

にわか雨が降る中、アスファルト舗装された道路上を5～6分ほど低く飛び回っていたが、雨が止みアスファルトが乾き始めると、湿り気の残る場所に止まり、口吻を伸ばした。

《 参考文献 》

松井正人(1989) 山ゴマノート1989. 翔(80):7.

■観察した蝶

2014年7月27日	富山県南砺市袴腰山	カラスシジミ	1 頭目撃	松井正人
2014年7月27日	富山県南砺市袴腰山	ミヤマカラスシジミ	多数目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	ミヤマカラスシジミ	3 頭目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	ミドリシジミ	1 ♀ 頭目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	ヒメシジミ	1 ♂ 目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	ヘリグロチャバネセセリ	2 ♂ 1 ♀ 目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	コキマダラセセリ	3 ♂ 4 ♀ 目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	ヒメキマダラセセリ	1 ♂ 目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	ヒメキマダラヒカゲ	2 頭目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	アサギマダラ	1 頭目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	テングチョウ	4 頭目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	エルタテハ	1 頭目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	アカタテハ	6 頭目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	イチモンジチョウ	4 頭目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	サカハチチョウ	多数目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	オオウラギンスジヒョウモン	1 ♂ 1 ♀ 目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	ミドリヒョウモン	1 ♂ 目撃	松井正人
2014年7月30日	富山県南砺市袴腰山	スジホソヤマキチョウ	1 ♂ 目撃	松井正人



アスファルト路面に舞い降り羽を開閉するエルタテハ(2014年7月30日撮影)



ヨツバヒヨドリで吸蜜
するミヤマカラスシジミ
(2014年7月27日撮影)



配偶行動をとるヘリゲ
ロチャバネセゼリの雌
雄。羽をふるわせてい
たかと思うと、雌に雄が
張り付いているかのよ
うに2頭同時にぴょん
ぴょん飛んで場所を変
えた。
(2014年7月30日撮影)



ヨツバヒヨドリで吸蜜
するコキマダラセゼリ
(2014年7月30日撮影)

入場登氏追悼文

井 村 正 行

闘病中だった入場さんが、2014年10月29日に永眠された。

10月初めにお会いした時は、家に一時帰宅され体調も良さそうで、その折には、何か月ぶりかの碁を楽しんだところであったので、突然の訃報唯々驚くばかりでした。蝶談会との関わりは、会の創設した当時の一人でその後退会されたが、私はそれ以後も親しくお付き合いをさせていただいていた。

入場さんは、私のカミキリの師と言うか昆虫全部の先生でした。自然界に関して博学であり、その知識の広さにいつも驚かされていた。お元気であったころは、戸台から仙丈岳の馬ノ背まで歩いた時、ヘバツテやっとこ動いている私を尻目に、涼しい顔でピーティングしていたのを見た時は、この人は天狗かと思った。また、サンダル履きで白山の市ノ瀬から釈迦岳、室堂経由で市ノ瀬に戻って来た一日コースは、今でも私の思い出の伝説になっている。

これで、師であり遊び相手であった、入場さんに会えないと思うと寂しい限りである。入場登氏の安らかなご冥福を心からお祈り申し上げます。

《 いむら まさゆき 920-0211 金沢市湊1丁目128》

表紙のむし - カマキリ -

恐いイメージがあるが、良く見ていると眼に動きがあって可愛い表情が見えてくる。こんな事を書いてしまうと、またまた変人扱いされてしまうだろうが、可愛いものは可愛いのである。

石川県には7種のカマキリが生息し、外来種の可能性があるハラビロカマキリに似ているムネアカハラビロカマキリは見つかっていない。オオカマキリやチョウセンカマキリ、コカマキリは、林縁にある日当たりの良い舗装された道路上で晩秋に良く見つかり、ヒナカマキリは、照葉樹が茂る神社の森で見つかる。ハラビロカマキリは、セイタカアワダチソウの花で獲物を待っているのを良く見かける。ヒメカマキリは偶然見つけたことがある程度で、ウスバカマキリは川原に居ると聞いているが見た事は無い。このヒメとウスバのセクシーな表情を何かの写真で見たことがあり、一度この眼でも楽しみたい。

松井正人

会員の動き・しゃばの動き

■涌いた涌いたの白山麓

白山麓では8月頃からアサギが湧き出し、この秋には約5000頭と例年の3倍以上に標識された。ところが不思議なことに、宝達山の観察数は例年の1割程度と少なく、メンバーが走り回って標識した結果は、総数で300頭程だった。いったい、どんな風が吹いたのだろうか。

■ルリボシカミキリの当たり年

今年はルリボシが大当たりだったようで、材でもなかなか見付からないのに、リョウブの花をすくった井村会長のネットに何と3頭のルリボシが入っていた。

■ヒメキマダラヒカゲはどこまで分布

金沢市の国見や甥杉、小松市の蓮如山、上大杉など標高300m以上で観察されているが、能登の宝達山や高洲山、加賀の観音山や鞍掛山、刈安山にはいないのか。

■エサケルス大会

大御所も参加する甲虫屋の集まりが、今年は伊那谷である。一泊飲み放題で予算は1万円程。毎年40~50人が集まり、オークションも有る。井村会長は毎年出席していて、同行者を誘っていた。

■早過ぎるよ入場さん

珍しい虫を採りながら「偶然、偶然」と言っていたが、何度聞いたか分からない。自然が好きで山が大好きで、サンダルで白山に登るスーパーマン。独特な話し方で、虫の見つけ方をいくつも教えてもらった。まだまだ教えて欲しいことがあったのに、69歳は早過ぎるよ。

■寒くなるのが早かった

今年は、10月に入ると急に虫の姿が見えなくなった。昨年が暖かだったのかも知れないが、アサギの標識数で比較すると、昨年10月の300頭に対し今年は24頭。決して今年のアサギが少なかった訳では無い。

■クマやサルの出没もなんのその

浅野氏、犀川峡へは20分で行けると、クマやサルの不安もあるが通い続けている。鈴を鳴らして通ったおかげで、カラスシジミも採卵できたし、翅の切れ込みが激しいカッコいいシータテハも採れた。

■沖縄遠征

まずは福富氏がチョウを採ると言いながら出かけ、続いて細沼氏は「ヒメシルビアだ!」と言って出かけ、更には山岸氏も出かけた。このシーズン、本土からのアサギが飛んでいる頃で、「ほうだつ」や「白山」マークも見付けてくれないかなあ。

■宝達山の魔法使い

宝達山には、マークアサギを見付けてもらう達人がいる。今年は白山麓にアサギが多かったので宝達山から出稼ぎに行き、白山マークで102頭に魔法をかけた。既に5頭が沖縄など各地で見付き、再発見の魔法はしっかり効いている。

■シンジュサンを探せ

医王山やキゴ山周辺で度々観察されているシンジュサン、ヨナグニサン似で南国情緒が漂い、しかも大きい。シンジュ、キハダ、サンショウ、カラスザンショウ、ゴンズイなどを食べ、樹上のマユで越冬する。

■イカリモンの生息地

イカリモンが住む浜は、砂粒が細かく車が走り易い。かつての大産地だった千里浜は、なぎさドライブウェイで潰れてしまい、現在は限られた場所に生息しているが、形だけの車止は車の侵入を許している。県指定希少野生動物に指定したのに、なぜ本腰が入らないのだろうか。

■横山図鑑クイズ3題

蟻の親達が、「体から分泌する甘い蜜に幻惑されたあやまちを知る由もない」のは何シジミ。「飛行機から散布されるピラカ宵闇を飛ぶ蛍のように、ゆるやかにピカピカと銀色に光って」群飛するのは何シジミ。「仄暗い木の間を長い振り袖のような後翅を風に揺られながら、流れるように溪流を飛ぶ」のは何アゲハ。

■またまたセミ食の話

今夏、大場町民を巻き込んでスジアカを食べる会が有った。F氏にそそのかされた

大場町民、尻込みしていたはずなのだが、何を思ったか来年も開くと言っている。

■ 例 会 の 記 録 ■

10月9日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今年はエルタテハの当たり年だったようで、松井氏が県内各地の観察記録を紹介。6月から観察され出した白山麓では、樹液に飛来する個体が次々に観察され、あっと驚く医王山でも観察された。

その他の話題は、シラミネコムラサキの怪しい輝き、宝達山にヒメキマダラヒカゲは居るの、シンジュサンを探せ、ルリボシの当たり年、むし社のマルバネ本、オオズのピークは10月末、減ったクロアゲハ、お湯で青くなったタマムシ、木の上のタマムシに注意、沖縄に行くぞ、などなど。

参加は、井村、山岸、浅地、大宮、浅野、細沼、松井、福富の8人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

高野敏明：医王山でエルタテハを採集	1
平松新一・南出 洋・安田雅美：石川県白山市中宮でエルタテハを観察	2
松井正人：白山市一里野スキー場上部でエルタテハが樹液に飛来	3
三上秀彦：白山市山間部の2ヶ所でエルタテハを確認	5
松井正人：富山県南砺市袴腰山で観察した蝶	7
井村正行：入場登氏追悼文	10
編 集 部：会員の動き・しゃぼの動き	11

翔 231 号

Tobu 2014年12月10日発行
 百万石蝶談会
 金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
 郵便振替 00750-8-562
 印刷 小西紙店印刷所

